

2017 N-ONE OWNER'S CUP Rd.2

2017/3/12

ツインリンクもてぎ (栃木県)

ML ヌヴォラーリ ET N-ONE

コンディション ドライ

<レースプレビュー>

2017年 N-ONE シリーズ、東日本地域初戦となるツインリンクもてぎがシリーズ第2戦として開催されます。

当初、参戦する計画はなかったものの、2月の K4GP でのクラッシュから修復を終えたマシンの状態を確認するため急遽参戦する運びとなりました。

参加台数は33台と地方戦にしては多くの台数が集まっており、昨年ファイナルでバトルをした坂井選手もいるためリベンジをする絶好の機会となりました。

大会前日に設けられた占有走行では1本目、2本目ともにドライコンディション。

1本目はマシンの状態を探り探りで走行を重ねていき、今までの走り方では速く走れない部分を抽出することに専念しました。2本目までのインターバルで昨年に引き続き今回もサポートを頂いた MIDLAND 様のオイルへと交換、リアブレーキのクリアランス調整を行い、明日の決勝を想定したマシンへ仕上げを行いました。

2本目は予選を見据えたタイム一発出しを考えて走行を行い単独での走行を重ねました。しかし、自分が思っていたよりもタイムは伸びず、予選タイムとして最低限必要だと予想される46秒台に一度も入れることが出来ず終了してしまいました。総合結果でも全体の4番手、トップの#36 阿久津選手からはコンマ8以上離されておりロングランのペースを考えてもトップ6に食い込めるかどうかといったところ…ただ、走り方次第では速く走れるところも徐々に分かってくるため、少しでもマシンを素直に走らせられるかを何度もイメージしレース当日へ臨みました。



NUVOLARI



Winmax

<予選> **1位** Time : 2'45.222

想定していたよりも朝の気温は低く 8℃。昨年のファイナルよりも若干暖かく徐々に陽が射す中 20 分間の予選が開始された。

チームメイトの#36 阿久津選手に引っ張ってもらう形でヌヴォラーリの 3 台が連なってアタックラップへ入る。途中、タイム差のある車両に引っかかるかと思われたが最小限のロスで済ませることができ、セクター2 を全体ベストで通過し 46 秒フラットを記録。

この時点でトップ#390 坂井選手、2 番手#69 寺地選手、3 番手に#127 小林のオーダー。

本来であればここでアタックはやめる予定だったが、トップとの差が近い事とチームメイトの寺地選手が一つ上にいることでスイッチが入ってしまい、内圧を調整後ラスト 4 分で再びコースイン。タイムアタックを開始すると終了間際に昨年のファイナルで記録した自己ベストを更新する 2 分 45 秒 222 を叩き出し、ポールポジションを獲得した。

<決勝> **1位** Best Time : 2'46.052 **ファステストラップ記録**

気温 11.2℃、路面温度 28℃という予選からは一気に暖かいコンディションとなり決勝レースが行われた。

今年より新しくなったファイブユニットのシグナルがブラックアウトし、好スタートでホールショットを決める。2 周目にはこのレースのファステストラップを記録するハイペースで走行をするものの、3 周目の S 字で痛恨のブレーキングミス。一気に後ろとの差が詰まるとダウンヒルの 90 度コーナーで#390 坂井選手に並ばれてしまう。2 台並んだままセカンドアンダーブリッジを通過し、ビクトリーコーナーで再びトップを奪い返すことに成功する。

予選中に 2 度のアタックをした影響からか 4 周目にはタイヤが厳しくなってきた。47 秒台まで一気にペースが落ちてしまう。しかし、後方もタイヤが厳しいのは同じ状況で差を詰められることはなく、レース終盤になっても上位陣の順位に入れ替わりは無い。

安定したラップを刻み、2 位に 1 秒近いリードをもったままポールのウインを飾った。



NUVOLARI

Super Endurance Racing Oil
MIDLAND
L.M. SPEC.

Winmax

<レースレビュー>

シーズンオフ中にも K4GP を含め N-ONE には何度か乗っていましたが、レース一週間前に戻ってきたマシンは今までとは全く別の車になっており、いかに早く状態を把握できるかがこのレースの鍵でした。

練習走行中にもトラブルが多発し、まともに決勝を走り切れるか不安な部分が多かったですがサポートして頂いている方々のおかげで無事に最後まで走りきることが出来ました。

予選で2度目のアタックをしたときは終始単独で走行できたこと、タイヤのおいしいところをフルに使えたことが相まって自分でも驚くようなラップを刻むことが出来ました。ドライバーとしても変に緊張することなく、しっかり集中力を保てたことは昨年一年間意識していたことがちゃんと身に付いていたからこそだと思います。また、今回のようにチームメイト同士で高めあえるような関係は続けていきたいです。

決勝も非常にいいモチベーションで戦うことが出来ました。ファイナルとは逆の立場で逃げながらもバトルするときはお互いクリーンな走りが出来ていて、見ている方にも良いレースだったと言っていたことが何より嬉しかったです。

今シーズンはより上のクラスで戦うため昨年夏ごろより準備をしていましたが、決まりかけていたシートがシーズン開始直前ですべて白紙となりました。そんな中で走れるチャンスが巡ってきたこと、君が走るならとサポートして下さるスポンサー様、出ないと言っていたにも関わらず暖かく迎えてくれた N-ONE 関係者の皆さま、多くの方の支えがあり走ることができ、そのなかで優勝のご報告が出来ることがとてもうれしく思います。

レースを全面的に支えてくれた家族に感謝するとともに、マシンをレースに間に合わせて頂きこれまで以上のサポートして下さったヌヴォラーリの皆さまをはじめ、Racing Garage K 中本様、MIDLAND 様、宮本商会様、winmax 様、E-TECH 様、現地にてサポート頂きましたホンダカーズ三重の皆さま、本当にありがとうございました。



NUVOLARI

Super Endurance Racing Oil
MIDLAND
L.M. SPEC.

Winmax